

令和4年度 奈良県立西和清陵高等学校 学校評価総括表

【高等学校用】

年度	令和4年度（中期計画1年目）
本校の使命（スクール・ミッション）	他者を尊重し、さわやかに振る舞うとともに、課題解決に尽力するなど、社会人としての「生きる力」を育成する
令和4年度 重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校生活における目的意識と社会における規範意識を高め、多様な人々とともに、目標に向けて協力する力を育てる。 ・地域・家庭と連携して主権者教育、消費者教育、金融教育を進め、高校卒業後の10年間を見据えたキャリア教育を推進する。 ・ICTを活用し、対話的で探究的な学習活動を充実させる。 ・指導と評価の一体化を意識した学習指導を推進する。 ・コロナ禍で制限されていた教育活動を順次再開するとともに、新たな視点で、地域の教育資源を活用した教育を推進する。

1 スクール・ポリシーの内容

教育方針 (スクール・ポリシー)	入学者の受け入れに関する方針 (アドミッション・ポリシー)	本校では、以下のような生徒を積極的に受け入れます。 ①本校の使命や教育方針を理解する生徒 ②本校で学びたいという強い意欲を持ち、自己実現に向けて、主体的に学習に取り組む生徒 ③部活動やボランティア活動等を通して学校生活全般に意欲的に取り組む生徒
	教育課程の編成及び実施に関する方針 (カリキュラム・ポリシー)	本校では、校訓「清新・敬愛・力行」の精神を基調として、社会人としての「生きる力」を育成することを、教育目標として、その実現のために以下の教育を行います。 ①日々の学習を通して確かな学力を身に付けさせるとともに、思考力・判断力・表現力を高める授業を展開する。 ②人権を尊重する態度やコミュニケーション力を培い、自他を敬愛する心と社会規範意識を高める。 ③心と体のバランスを整える力を養い、充実した生き生きとした学校生活を送らせる。 ④人生100年時代を見据えたキャリア教育を推進し、「何を、どのように学び、どう活躍するか」を主体性を持って考え、実践しようとする生徒を育てる。 ⑤進路実現に向け、2年次から文系、文理系、理系のコースを設定するとともに多様な学びに応じた選択教科を設ける。 ⑥進路実現に向けて、進路先の訪問や、招聘する機会等を設けて、個に応じた進路指導を徹底する。
	育成を目指す資質・能力に関する方針 (グラデュエーション・ポリシー)	本校では、卒業までに以下の資質・能力の育成を目指します。 ①自己の考えをもち、周りの人々と適切なコミュニケーションが図れ、他と協力して問題解決できる。 ②西和清陵高校生としての誇りを持ち、地域社会に貢献でき、信頼される。 ③人権意識と社会規範意識を身に付けている。

2 奈良県教育振興基本計画（「奈良の学び推進プラン」）が示す各テーマごとの学校教育目標

テーマ	学校の教育活動に関する目標（A）	計画期間における具体的な目標（B）	令和4年度末の目標値等（C）	令和4年度末の状況（D）	自己評価（E）	学校関係者評価（F）	改善方策（案）
1. こころと身体を子どもの成長に合わせてはくむ (保体・生徒指導)	望ましい運動習慣の確立	スポーツテストにおけるTスコア8%アップ	スポーツテストにおけるTスコア3%アップ	Tスコアの結果はマイナス2.8%	次年度は体育行事の充実を図り、運動の楽しさを再認識させたい	生涯スポーツの概念を生徒に伝えていただきたい	まずは、コロナ禍で影響を受けた行事を今まで以上に発展的な取組となるよう計画する
	クラブ活動を通じた、達成感、成就感、自己肯定感等の向上	部活動加入率80%以上	部活動加入率60%	部活動の加入率は36.9%	次年度当初よりあらゆる機会を活用し、部活動の意義や魅力を伝え続けたい	部活動で得た経験・学びが、その後の人生において大きな影響を与えたいことを伝えてほしい。また、部活動以外にも達成感の味わえる場を設けていただきたい	部活動の意義についての外部講師による講演会を実施する。また、主権者教育の視点から、より能動的な生徒会活動が実践できるよう導く
	健康教育の一環として、望ましい食習慣の確立	毎朝の朝食摂取率80%以上	毎朝の朝食摂取率70%以上	毎日食べる、もしくはほぼ毎日食べる72.7%	朝食を摂る生徒は増えており、生活習慣の向上につながるかと考える。また、朝食摂取の必要性を科学的な根拠に基づいて理解させていきたい	健康面だけでなく、1日の始まりとして朝食摂取による生活習慣の確立を目指してほしい	現在の取組を継続的に実践する
2. 学ぶ力、考える力、探求する力をはくむ (教務・進路・文化図書・GIGA S促進・管理職)	基礎・基本的な学力を身に付けさせるとともに、思考力・判断力・表現力を高める授業の工夫	BYODにより、効果的にICTを活用した授業の実践	教員の授業力の向上のための研修参加率90%	教員の研修参加率88.6%。家庭学習に取り組ませることができた48.1%。授業でICTの活用ができた51.9%	ICTを活用した学び直しの他、生徒同士が教えあったり発問し合う機会を増やし、主体的な態度で学びに向かう姿勢を育てていきたい	学校の学びが変化しており、これからの社会において必要な能力を身に付けさせたい	自学自習による学び直しの取組の一環として学習ソフトの導入を検討している
	SDGsの視点を取り入れるなどした探究活動による主体的・対話的で深い学びの実現	SDGsに関わる課題研究の発表会の開催	計画に基づいた各教科における実践	授業で探究活動を取り入れた22%	地域と連携した探究活動により、主体的に対話的な学びを充実させ、生徒の課題解決能力を育てていきたい	「生きる力」を育てる上でコミュニケーション能力と各教科の知識等を活用して行う探究活動は必要と思われる	授業において、探究活動の取組をすすめ、知識の活用と課題解決能力・コミュニケーション能力の向上をめざしたい
	学習意欲の向上と自立した主体的な学びの実現	在学中の各種検定取得者70%以上	実用英語技能検定、漢字検定及びパソコン検定等の資格の受検率80%	諸検定受検率65.1%。受検者のうち、1つ以上の検定取得率57.1%	検定取得が学力の向上だけでなく進路実現の重要な要素であることを認識させるとともに、全校生が自分の実力に合わせて目標を立てチャレンジする取組をしたい	検定の取得は、短期的な学習の目標として有効であると考え、検定取得の取組を引き続き推進していただきたい	進路指導と一体化した指導で、生徒の意識を高めると共に、対策講座の充実をはかりたい
3. 働く意欲と働く力をはくむ (進路・学年主任)	キャリアコンサルティングの充実	生徒理解と可能性を伸ばすキャリア教育の推進	1年時よりキャリアに関する面談を生徒1人あたり年間5回以上実施	全員4回は実施できたが5回以上実施は一部生徒にとどまった	次年度より新たなキャリア形成プログラムにのって進路実現を進めるとともにキャリアサポートを活用したキャリアコンサルティングも一層充実していきたい	キャリア形成プログラムの取組は素晴らしい、効果があることを期待している	教員・生徒共に、キャリア形成プログラムの意義と求められる成果を理解し、取り組んで成果を上げていきたい
	様々な場面でのコミュニケーションを通じた、ものの見方や考え方の育成	産業界・事業所と連携したインターンシップ参加率30%	キャリアガイダンス、進路講演会を各学年実施	生徒の校外でのキャリアに関する講演会参加率13.1%。インターンシップ参加率33.9%	次年度の進路行事計画を見直し、3年間トータルでの計画を次年度より実行する。そして、進路だけでなく将来にわたるライフプランを考えさせる	ライフプランについて考えることは、インターンシップの取組を進める上でも効果的と考え	保護者に対して確実に情報提供を行い、学校・家庭の双方からインターンシップの重要性を伝えていきたい
	一人一人の生徒の能力や適性に応じた進路指導の工夫・充実	ミスマッチを防止し進路保障に努め、1年以内の離職率は5%以下、退学率は1%以下とする。	進学生徒には、オープンキャンパスを就職生徒には、企業見学の100%の参加	3年生のオープンキャンパス参加率71.6%。事前の企業見学100%	決定した進路先への適応指導にも力を入れることによりミスマッチを防止、より満足した進路選択とした	進路先を十分に理解した上で進路決定すること。さらに進路先への適応能力を高めることは必要であり、是非ともこの取組を推進していただきたい	自己理解・仕事理解・学校理解をすすめた上での進路決定を徹底し、さらに進路先への適応能力も育てていきたい
4. 地域と協働して活躍する人を育てる (生徒指導・環境・総務・管理職)	コミュニティ・スクールの効果的な運営	教職員との連携と学校運営協議会の年度3回の実施	学校運営協議会の年度2回の開催	今年度3回実施	学校運営協議会の運営を「地域と共有する学校づくり」につなげたい。そのため地元地域にとっても「地域と共有する学校づくり」には期待している。西和清陵高校にはリダーシップを発揮していただきたい	コミュニティ・スクールの発展的な運営のためにも学校運営協議会委員の構成についても再考したい	次年度創立20周年を迎えることを活用し、地域資源を活用した具体的な事業を計画し実行していきたい
	地域協働「地域と共有する学校づくり」の工夫・充実	地元事業所・役場と連携した行事の開催	学期ごとのボランティア活動・通学路清掃等、地域への貢献活動の実施	児童対象の書道教室を開催。地元の清掃活動に参加（予定）	三郷町教育委員会や町内各校などと連携し、協働による教育活動を実践したい	小中高の連携を進めようとしておられるが、地域資源をいかした一貫教育がすすめられれば素晴らしいことと考える	具体的な計画を示して実行していただきたい
	災害時のボランティア活動の推進	地域と協働した定期的な防災訓練の実施	地元自治体との防災協定を締結	地元自治体との防災協定締結に向けて継続協議を行っている	自身がいじめられていると感じた案件に対してその都度対策会議を開き、実態の把握と対象生徒のフォローに努めた結果、一定の効果をおた	可能な限りの対応ができたと感じている。今後ともその都度対応し、生徒に寄り添う姿勢を示し、生徒が安心して過ごせる環境を整備したい	丁寧な対応をしていただいていると思われる。継続的な取組をお願いしたい
5. 地域で個性が輝く環境と仕組みをつくる (人権・生徒指導・教育相談)	学校いじめ防止方針に基づく取組の推進	誰も取り残さない取組の実践するため、生徒情報の共有化等の組織的体制づくりを完成させる	個人面談やアンケートを活用し、早期発見に努め、定期的に対策会議を実施する	校内組織体制の構築と年2回の研修を行う。外部機関（教育研究所・医療機関・スクールカウンセラーなど）との連携	特別な支援・配慮を必要とする生徒に対し、「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」を作成するとともに、今まで以上に外部機関・家庭との連携を進めていきたい	社会的な現状をみても特別な支援が必要な生徒は増えている。学校だけでなく、奈良県教育委員会と連携し、人的支援を含め、より手厚いサポートをお願いしたい	外部機関・家庭との連携は大切であり、奈良県教育委員会とも連携しながら、必要なサポートを行ってほしい
	特別支援教育の推進	出身中学校も連携し、対象となる生徒の状況を組織的に把握し、個に応じた指導を実践する。	外部人材を活用した効果的な学習の実践	人権HR・人権講演会の年間4時間開催	計画通りに実施できた	高校在学中に成人することになるので人権教育を受ける最後の機会であるとも考えられる。能動的に行動できる力を育てていただきたい	人権意識を持った生徒が能動的に活躍できる場を設定していきたい
	世界人権宣言を尊重する教育の推進						

3 評価結果の分析、今後の改善方策等

全体としては、保護者アンケート(西和清陵高校)に通わせて良かった。94.4%、生徒アンケート(西和清陵高校)に生徒入学して良かった83.1%との評価を得ており、本校の教育活動に対して一定の理解が得られているものと捉えている。教職員業務に対する意識は高く、ICTの活用を含む授業改善をはじめとして、スキルアップに取り組んでいる。また、今年度から18歳成人となり主権者教育・金融教育・ライフプランニング教育等の充実を図るためにも各自目標を明確化し、カリキュラムマネジメントを一層進めたい。さらには、社会人基礎力を身に付けるためにも、部活動・生徒会活動などの生徒の課外における自主的な活動を推進し、授業においても探究活動を積極的に取り入れて課題解決能力やプレゼンテーション能力を向上させるなど、対話的に学ぶ力が身に付けさせたい。最後に、三郷町にある唯一の高校として地域連携を積極的にすすめて、地域資源を活用したキャリア教育の実現をめざしていきたい。